2026年11月16(月)
北海道エアポート株式会社
釧路空港事業所

航空機を導く夜の「灯火」をドローンで点検
～効率化と安全性の向上を目指し、釧路空港で多様な技術を実証実験～

釧路空港を運営する北海道エアポート株式会社は、住友商事株式会社と共同で、ドローンやAIを活用した空港点検業務の実証実験を実施します。上空からドローンで撮影した映像をAI解析し、航空灯火の点灯状況を確認するほか、車載カメラによる異常検知やサーマルカメラによる野生動物の検知を検証します。人による点検を先進技術で補完することで点検業務の効率化と安全性の向上を目指します。

ドローンによる航空灯火点灯状況の点検実証

現状、点灯状況を1つずつ目視で確認
航空灯火 約 1,700灯/所要点検時間 約 1時間

①ドローン撮影・AI映像解析
・人による確認作業の補完機能を検証
・将来的な省力化に向けた実用性を検証


航空灯火

夜間に点灯中の航空灯火(滑走路灯や誘導路灯など)をドローン撮影・AI映像解析することで広範囲の航空灯火を効率的に確認するとともに、点検作業の省力化や安全性の向上を目指します。


進入灯橋梁

釧路空港では、進入灯の一部が橋梁上に設置されていることから、従来の点検では人力による高所作業を伴っております。本実証ではドローン撮影・AI映像解析を活用することで広範囲の航空灯火の点灯状況を効率的に確認・記録し、点検業務の効率化と安全性の向上を図るとともに、将来的な点検手法の高度化につなげることを目指します。

併せて実施する点検実証

②車載カメラとAIによる異常検知
点検車両に搭載のカメラ映像をAIが解析し、
路面のひび割れや異物・柵の破損などを自動判定

③サーマルカメラによる野生動物の検知
サーマルカメラ搭載ドローンで、滑走路周辺の緑地帯にいる野生動物などを夜間帯に検知

概　要

○ 実 施 期 間：2026年11月16日～2027年3月末 (ドローンによる実証は11月中に２回実施予定)
○ 実 施 内 容：上記①～③
○ 目　　的：点検業務の効率化及び安全性向上のための技術検証
○ 体　　制：実証主体/住友商事株式会社　実証協力/北海道エアポート株式会社

※総務省令和7年度補正予算「地域社会DX推進パッケージ事業(先進的通信システム活用タイプ)」の実証事業として実施